

防災の大切さ

なぎさ小 六一ニ バッテイ 亜夢斗

ぼくは、今まであまり「防災」ということに関心がなかったし、地震や津波が来た時の事もなにも考えていませんでした。

今回の授業を受けて、こんなに人のために頑張っている人がいるのだなあと、強く思いました。中野さんのネパールやスリランカでの活動は多くの人々に防災の大切さをうた

たえることが活動の目的の一つですが、言葉がすべて通じるわけではないのに、絵本の読み聞かせをしたりするのは、驚きまじりました。中野さんが、友達が地震や津波などの時、わらい気持ちになつていた時、とにかく言葉を交わさなくてもよいから、そばにいてあげよう。ということを知った時、一緒にいるだけでも何かが変わるのだなあと思えました。中野さんたちは、自分たちがいなくなっても防災の意識を持ち続けるように、絵本を

作ったり、新がた県で地震が発生した時募金活動を行ったり、どうしてもそのようなことを積極的に行うのか、授業が始まってからずっと疑問に思っていました。その答えは、阪神淡路大震災の時、多くの命は備えていれば救えていたのでは、と思っただけです。

その理由を聞いた時、災害に備えるということ、簡単なことで、とても重みのある命を救えるんだということを知りました。知っていたのかも、かもしれないけど防災ということの大切さを感じました。

今までよりも強く感じました。ぼくは中野さんのように人のために積極的に活動できるようになっただけでいいな、と思いました。